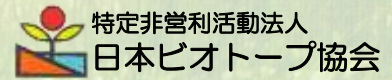


ビオトープだより第1号

会員・BAより ビオトープに関する情報を提供します。



1. 会長挨拶 櫻井 淳

皆様には日ごろより当協会の運営に対し、特段のご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

さて、昨年当初から世界的に蔓延している新型コロナウイルス感染症は、感染者数の急速な拡大に伴い、我々の生活に大きな影響を与えています。感染症対策として進められている「新しい生活様式」の実践は、従来の働き方と異なるリモートワークへの移行や、自宅での生活時間の増加など私達の暮らしを大きく変化させました。

この変化を「環境・ビオトープ」の観点からとらえると、癒しを求め身近な自然や緑地公園を訪れる人の増加や、庭やベランダでの活動への関心の高まりがあります。

「ビオトープ」には人々に癒しを与えるだけでなく、持続可能な社会を作っていくために必要な生物多様性を保全し、自然の持つ防災・減災機能を発揮させる基盤となるはたらきがあります。ウイルスの感染拡大により景気が後退した中でも、多くの人々は「健康で環境にやさしい持続可能なライフスタイル」を求めています。アフターコロナの時代に向け持続可能な社会の構築が重要です。

厳しい時ですが、「ビオトープ」の持つ多くの機能を発揮させるため、地域の「自然環境の保全」に取り組む事で、新たなビジネスチャンスが生まれます。ビオトープ協会では、会員皆様の活動を情報・技術両面でバックアップしてまいります。どんなことでもご相談下さい。

2. 助成金を活用したビオトープづくりの事例 総務委員長 梶岡幹生

ローソン 緑化貢献事業「緑の募金」を活用して 小学校でビオトープづくり

《 ローソン「緑の募金」による（公社）国土緑化推進機構の助成事業 》

- ローソン 緑化貢献事業「緑の募金」⇒ 国土緑化推進機構に寄付。
- 国土緑化推進機構の「学校環境緑化モデル事業」として毎年70校で実施。（1校当たり50万円の定額助成）

ローソン 緑化貢献事業「緑の募金」の支援内容の1つ

学校緑化活動

全国の小・中学校や特別支援学校などで、植樹や木の手入れ、ビオトープづくりなどを通じて子どもたちが自然に触れる機会を増やし、健やかな成長の一助としています。

ローソン HP より引用



改修前



改修後

広島県呉市の小学校の事例

閉鎖的な既存の池を、メダカが観察できる小さなビオトープの池に改修。

- ローソン緑の募金 50万円
- PTA 20万円

※2020年10月完成



下草の植え込み



「ローソン緑の募金」完成式

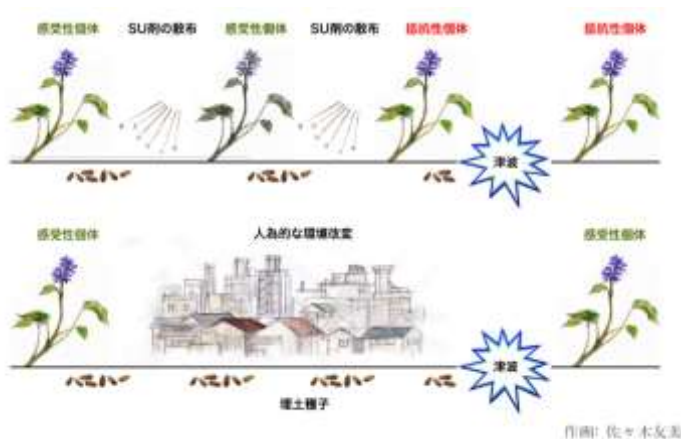
3. 大槌町町方地区に再生したミズアオイ保護保全活動について

副会長 野澤日出夫

協会誌「ピオトープNo.46」でエコリス社の中川美知子さんが、平塚明顧問のご指導による宮城県での活動を紹介していて、除草剤の「抵抗性」「感受性」ミズアオイについても解説、また平塚明顧問が「津波で甦った花 ミズアオイを守る」として2015年エコプロダクツリーフレットで紹介されている。(下記右の図)

今回保護活動を続けてきた町方地区(まちかた)は、豊富な湧水による湿原地帯で水田として昔から利用されていたが、1960年に起こったチリ地震津波の被災以降6.4mの防潮堤が作られ、高度成長の波に乗って埋め立てられて宅地造成が行われた。今では当時を知る住人達も少なくなり、自然豊かな湿原地域であったことは忘れ去られていた。

10年前の東日本大震災の大津波は、この防潮堤を楽々と超えて住宅地をえぐり大きな被害をもたらした。この被災したエリアは豊富な湧水によって昔の様な湿原地帯と化しミズアオイが出現した。このミズアオイが感受性であることを平塚明顧問が研究により明らかにされ、三陸自然学校大槌代表の臼澤良一氏の熱意で以来保護保全活動が始まり今日に至っている。



《保護活動でわかったこと》

ミズアオイは結実すると花茎が折れて水の中に浸るが、熟すと1~1.5mm程度の種子を多数放出する。放出された種子は水面に浮いて漂い、広範に広がり流れがあれば下流域へ拡散される。

- ① このエリアは、湧水と降雨によってのみ湿原となっていて、水系が限定された条件にあると言う事が特性で、他の水系からの流入が無い自然条件が除草剤感受性ミズアオイを遺伝子レベルで純粋に保全・保護できる重要な要件である。
- ② ミズアオイは、全く手をかけずに保護すると、種子は水底の土壤に埋もれて発芽せず徐々に衰退して行くが、発芽力は失われないため人為的に攪乱して条件を整えば一気に発芽して繁茂する。
- ③ 東日本大震災の伝承者ともいえる感受性ミズアオイを、大槌の恵まれた自然の中で持続的に保全する事で、将来世代へ大津波被害を長く伝えて行くとの地域の思いを実現させたいと北海道・東北地区委員会では活動している。



SDGs 《 1.貧困をなくそう 》



【 認定NPO法人 おてらおやつクラブ 】 <https://otera-oyatsu.club/>



「おてらおやつクラブ」はお寺にお供えされるさまざまな「おそなえ」を「おさがり」として頂戴し、子供をサポートする支援団体の協力の下、経済的に困難な状況にあるご家庭へ「おすそわけ」する活動です。

活動趣旨に賛同する全国のお寺と、子どもやひとり親家庭などを支援する各地域の団体をつなげ、お菓子や果物、食品や日用品をお届けしています。

全国のお寺と支援団体、そして檀信徒および地域住民が協力し、慈悲の実践活動を通じて貧困問題の解決を目指し、地域でみまもりを作っていきます。



活動内容

おすそわけ事業



経済的困窮者に対する食料品・日用品等物資の受入・配給事業

啓発事業



ひとり親家庭等の経済的自立や子どもの貧困問題に関する啓発事業

学び・居場所づくり事業



学習支援や居場所づくり等 子どもの発達・育成に関する事業

「おてらおやつクラブ」HP より引用